平成24年度 昭和薬科大学附属高等学校・中学校

発行: 平成24年7月 後援会事務局(本校内) TEL 098-870-1852

平成24年度役員会開催

「昭和薬科大学附属高等学校・中学校後援会」は、附属高等学校の創立 20周年を機に、1995年(平成7年)卒業生父母・高校同窓会・PTAで結成 され、学校の教育事業を支援する活動を行っています。

後援会では、6月15日(金)午後7時から平成24年度の役員会を開催し、

- ①平成23年度会務報告及び決算 ②監査報告
- ③平成24年度役員
- ④平成24年度事業計画及び予算
- の4議案を全会一致で承認しました。(次頁資料参考)。
- 平成24年度の活動計画として
 - ①奨学金貸与(経済的理由により就学困難な生徒に対し、奨学金を貸与 する。年間2人 年額360,000円、3年間)



比嘉幹郎会長

- ②特別活動援助(県代表として県外に派遣される生徒に対し、援助を行う。)
- ③講演会(生徒の学習意欲を喚起し、進学目標を達成させるためモチベーションを高める講演会を 実施する。)
- ④創立40周年記念事業寄付金(創立40周年記念事業を支援するため、平成21年度から寄付金の積 立を行う。)

以上4つが確認されました。

平成24年度役員については、下記の通りとなりました。

・平成24年度 後援会役員()は所属・

- 会 長 比嘉 幹郎 (卒業生父母)
- 副会長 伊禮 正直(卒業生父母)新里 守人(同窓会長) 眞榮田明美(PTA会長)
- 事 知念 良和(卒業生父母) 新垣 吉浩(卒業生父母) 本成 悦子(卒業生父母)

渡慶次 実(卒業生父母) 小山 師子(卒業生父母) 宮城 寛清(卒業生父母)

喜納兼次郎(卒業生父母) 高江洲和男(卒業生父母)〇新城 伸子(卒業生父母)

当山 恵子 (PTA副会長) 渡久地若江 (PTA副会長) O花城 哲 (PTA副会長)

又吉まゆみ (同窓会) 吉田 正(同窓会) 又吉 教彦(同窓会)

新城 正志 (同窓会) 宮島 正 (卒業生父母) 玉木 英恒 (職員OB)

- 監監 事 赤嶺 秀男(卒業生父母) 知念 拡(職員OB)
- 問 宮里 毅(3代校長) 比嘉 定俊(4代校長) 安室 肇(5代校長) 顧顧 稲福 達也 (現校長)

■事務局 事務局長 北川 隆(同窓会) 事務局(次長) 根路銘 敦(同窓会)

事 神里 正弘(教頭) 新垣 志信(教頭) 幹

〇印は新規会員

多4.平成23年度会務報告及び決算報告。2000

◎収 入

	科		目	予 算	決 算
1	入	会	金	1,200,000	1,600,000
2	寄	付	金	600,000	867,890
3	雑	収	入	1,000	10,035
4	繰	越	金	13,708,440	13,708,440
計				15,509,440	16,186,365

◎支 出

		科目	予 算	決 算
1		運 営 費	233,000	192,498
2		事 業 費	14,430,000	760,000
	1	当年奨学事業	1,080,000	360,000
	2	奨学事業基金	12,600,000	0
	3	特別活動援助	450,000	295,000
	4	講 演 会	100,000	100,000
	5	渉 外 費	200,000	5,000
3		寄付金	500,000	500,000
4		予 備 費	346,440	3,360
		計	15,509,440	1,455,858

(平成23年4月1日~平成24年3月31日)

- ※ 入会金(1万円)は、高校卒業時に入会案内を して父母のご協力をお願いしています。
- ※ 寄付金は同窓会・PTAからで、PTAはりんどう 祭バザーの収益があてられます。 (平成23年度の寄付金の決算内訳)同窓会 300,000円 PTA 567,890円
- ※ 平成23年度は奨学生の継続者 1名。
- ※ 奨学事業基金は奨学事業の為の積立金です。
- ※ 特別活動援助として、平成23年度は県外の大会等に参加した生徒59名に派遣費(1人5,000円)を援助しました。
- ※ 特別活動援助金(内訳) 高校/剣道部・ヨット・演劇部 将棋部・文芸部・陸上部 デイベート部

※ 講演会

講師:植松 務氏 演題:「思うは招く」

中学/デイベート部

300 3平成24年度语動計画及び予算。e.o.e.o.

(平成24年4月1日~平成25年3月31日)

◎収 入

	科目	予 算			
1	入会金	1,200,000			
2	寄付金	600,000			
3	奨学金返還	54,000			
4	雑収入	1,000			
5	繰 越 金	14,730,507			
	計	16,585,507			



▲ 奨学金交付式

◎支 出

		科目	予 算
1		運 営 費	233,000
2		事 業 費	15,430,000
	1	当年奨学事業	870,000
	2	奨学事業基金	13,740,000
	3	特別活動援助	520,000
	4	講演会	200,000
	5	渉 外 費	200,000
3		寄付金	500,000
4		予 備 費	322,507
		計	16,585,507

※ 支出の当年奨学事業は、昨年度からの 奨学生1名の継続と今年度の新規枠2 名分が予算化されています。

後援会活動報告

- ●生徒への特別活動支援金〔個人・団体〕【中学部活動】
- 1. ディベート部九州大会 5 位:全国大会派遣 6 名 【高校部活動】
- 1. ヨット部 優勝 九州大会派遣1名
- 2. ディベート部 九州大会6位 全国大会派遣6名
- 3. 剣道部 (男子) 個人3位 全九州大会 (7月) 派遣1名
- 4. 剣道部 (女子) 個人7位 全九州大会 (7月) 派遣1名
- 5. 陸上部 個人 3 位 九州大会派遣 1 名
- 6. 剣道部 (男女) 団体 3 位 玉竜旗大会派遣11名
- 7. 文芸部 推薦 全国高校総合文化祭派遣1名
- 8. 将棋部 男女優勝 全国高校総合文化祭派遣6名
- 9. 将棋部 優秀な成績 全国高校文化連盟新人大会 派遣3名
- 10. 演劇部 優秀な成績 九州演劇研究大会派遣6名
- 11. 剣道部(男子)団体3位 個人5位
 - 九州選抜大会(2月)派遣7名
- 12. 剣道部(女子)団体3位 個人7位 九州選抜大会(2月)派遣5名
- 13. 演劇部 優秀な成績 春季全国演劇研究大会派遣4名
- ●高校 1・2年生 中学3年生対象の講演会 PTA・本校後援会共催
 - 講師「植松務氏」
 - (株) 植松電気 専務取締役
 - (株) カムイスペースワークス 代表取締役

演題:メインテーマ 「思うは招く」 サブテーマ 「夢があれば何でもできる」

植松さんは、「思うは招く~夢があれば何でもできる!~」を伝えるために、また、「どうせ無理」と言う考え方を無くすために、日本全国で講演活動やロケット教室を行なっている方で、本校での講演も快く引き受けて下さいました。

講演の内容に、「夢」は、自分が追い続ける希望の光。「仕事」は、人の役に立つためにするもの。「夢」と「仕事」の違いに気付かせる内容もあり、講演を聞いた生徒のなかには、「自分の進路について積極的に考えるようになりました。」と言う生徒もいて、生徒達の心に響く講演内容でした。

後援会奨学生募集

財団法人沖縄県国際交流・人材育成財団(旧日本育英会)などが運営する公的な奨学金制度は、高校生を対象としていて、中学生への貸与は行われません。その点、後援会の奨学金制度は、中学生も対象としているのが特徴です。他の奨学資金との併用はできませんが、中学生の間は後援会の制度を利用し、高校生になったら返済期間が長い公的な奨学金制度へ切り替えることもできます。平成22年度までに8名の生徒が後援会の奨学金制度を利用しています。希望者は、学級担任を通して新垣教頭に相談して下さい。

一後援会の沿車

1993年(平成5年)

高校同窓会の呼びかけで、卒業生父母とPTA の三者により「創立20周年記念会館建設期成会」 (比嘉幹郎会長)を結成。

1995年(平成7年)

創立20周年記念会館が落成し(総工費約5千万円)学校へ寄贈する。目標を達成した「建設期成会」は、引き続き学校の教育目標達成に必要な支援を行う為に、「昭和薬科大学附属高等学校・中学校後援会」(比嘉幹郎会長)として再編・発足する。

2002年(平成14年)

奨学事業と生徒の特別活動援助事業を開始。 また、高校創立30周年記念事業に向けて「創立 30周年記念事業期成会」を結成し、資金造成に 協力する。

(2004年資金造成目標を達成 30,139,005円) 〇生徒の県外派遣へ計270,000円補助

2003年(平成15年)

○生徒の県外派遣へ計320,000円補助

2004年~2007年(平成16年~19年)

この年度に会則一部改正

(従来の「卒業生父母の会」を発展解消し、 卒業生の父母は直接後援会へ入会することになった)

- 〇奨学金 貸与
- 〇生徒の県外派遣へ

2008年(平成20年)

- 〇生徒の県外派遣へ計710,000円補助
- 〇生徒対象講演会協賛

2009年(平成21年)

- ○生徒の県外派遣へ計420,000円補助
- 〇生徒対象講演会

2010年(平成22年)

○生徒の県外派遣等計360,000円補助

2011年(平成23年)

- ○生徒の県外派遣等計295,000円補助
- 〇生徒対象講演会